

鐘華会九州支部だより

九州支部だより 第15号
発行 2008年11月20日
発行者 中村 晃

戦艦大和の生涯 ②

江崎 昭三

★ 大和の3連装砲塔は

大和の46cm主砲は1460kgもの重量がある砲弾を40,000m以上も飛ばすことができた。

装填する46cm徹甲弾は戦艦の主砲砲弾として世界最大のものであった。

★ 鎮守府

日本海軍は日本近海を防衛するため、4つの海軍区に区分し、横須賀・呉・佐世保・舞鶴に鎮守府を置き、鎮守府が置かれる港は軍港と呼ばれた。

軍艦の建造や修理を行う海軍工廠や、下士官の教育訓練を行う海兵団など海軍に必要なものすべての機能を持って、軍艦は全ていずれかの鎮守府に属していた。

また鎮守府の他に要港と呼ばれる港があり海軍が使用する重要な港のことを指した。

★ 軍令部と連合艦隊司令部

軍令部は戦略レベルでの作戦を立案し、大方針を立てる組織で海軍省から独立したもので終戦まで海軍の作戦立案を行う組織として、戦時には大本营海軍部として日本の戦争指導を行った。

軍令部が戦略及び作戦立案を行う常設組織であるのに対し、実戦部隊である連合艦隊は戦時に編成され、軍令部が立てた戦略に従って部隊を指揮するので、司令長官は兼任でも問題はなかった。臨時の司令部だった連合艦隊司令部は、軍令部、各鎮守府と並ぶ存在となり、太平洋戦争開戦時には山本五十六大將のもと、軍令部に戦略的作戦を提案するまでになったのである。

★ 軍艦の名前

昭和になると軍艦の種類も増え、艦名に使用される言葉もさまざまに増えた。戦艦は大和・長門など旧国名、1等巡洋艦である重巡には足柄・妙高など山の名、2等巡洋艦にあたる軽巡には矢矧・北上など川の名を、駆逐艦は大型の1等駆逐艦が雪風など天文、気象や海象現象、小型の2等駆逐艦が松・桜など植物名を、空母には瑞鶴・蒼龍など空を飛ぶめでたい動物を、潜水艦には大きさ別に伊号、呂号、波号に分けて番号を付けていた。

日本海軍の軍艦の名前は小さな砲艦に至るまで基準があったが空母「赤城」のように他の艦種から改造された艦や、重巡「利根」のように軽巡として計画されながら重巡として建造された場合は改造前の名前がそのまま用いられた。

この命名基準はひらがな表記

と形を変えながらも現在の海上自衛隊に受け継がれている。

★ 軍艦旗

海軍の艦艇は全て、軍艦旗を掲げている。軍艦旗は軍艦の所属を示し国家を象徴するため、航行中の軍艦は常に、停泊中でも日中は掲げる義務があった。現在、外洋を航督する全ての船舶は、船籍が置かれた国の国旗を掲げることが義務づけられている。

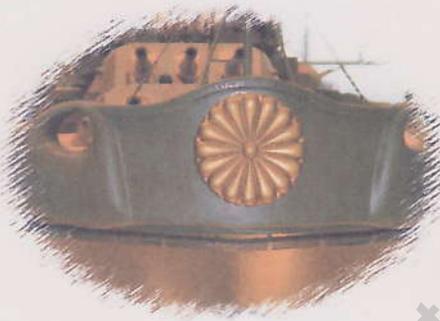
日本の軍艦旗は1889年の海軍旗章条例で、現在知られている旭日旗が定められた。以後、戦後も海上自衛隊で自衛艦旗として再び採用されている。



★ 菊の紋章

日本海軍の軍艦の写真で艦首に菊の紋章が付いているのを見られた方が多いと思われるが、軍艦にはすべてに菊の紋章が付いている訳ではなく戦艦・巡洋艦・航空母艦・練習戦艦・練習巡洋艦・砲艦・敷設艦・水上機母艦・潜水母艦の9種の軍艦の艦首には菊の紋章が付けられていた。

その他の駆逐艦、潜水艦などの補助艦艇にはなかった。



★ 海軍の敬礼

海軍の敬礼は、狭い艦内環境から考えられたもので、世界の海軍で多く採用されているスタイルで、肘を折った右手を真横水平に出す陸軍式と違い、水平に伸ばした右手を下に45度、同時に前方に45度出した位置から肘を曲げ、まっすぐ伸ばした人差し指と中指を帽子のふちに当てるのである。

敬礼の際には、足は踵をつけて爪先を60度に開き、左手はまっすぐ伸ばして中指をズボンの縫い目にあて、顎を引くようにして気をつけの姿勢で行った。海軍のスマートなイメージを広めることに貢献していた。

★ カッター訓練

海軍では軍艦から上陸時の交通手段や海に落ちた水兵の救助、食料補給の際の運搬など用途は広く、まさに軍艦の足であった。このカッター訓練は水兵だけでなく士官教育にも必ず行われた。

艇の長さが9mもあり、片舷6本、計12本のオールを持つカッターを漕ぐには、かなりの労力を必要とした。オールの長さは4mを越え、握りのあたりにはバランスをとるために鉛が埋め込んであり、とても重いので大変であった。

カッターは12人全員の呼吸が揃わないと、進みが遅いうえに無駄な力が加わって疲れもひどい。

手にマメができ、それがつぶれて皮がむけた。オールの動きとともにこすれる尻の皮がむけ、腹の皮と腕がつっぱった。海軍生活を経験した人たちは例外なくカッター訓練は辛い思い出として残っているという。

★ 海軍五省

1. 至誠に忝るなかりしか
2. 言行に恥ずるなかりしか
3. 氣力に欠くるなかりしか
4. 努力に憾みなかりしか
5. 不精に亘るなかりしか



我が家の大和（写真）

* 奥が250分の1（全長105cm）

船体は木製、艦橋・砲塔等は金属製

* 手前が350分の1（全長75cm）

プラモデル

船体は木造で、カッターナイフやサンドペーパー、接着剤、ピンセットで細かい部品の取り付け、ラッカーペイント吹き付け塗装など、苦勞したが完成を見て感無量である

縄文杉に会いに行く

市 木 丞



〔荒川登山口へ〕

早暁（午前4時）に予約をしておいた山岳ガイドの迎えを受けホテルを出発。一路、荒川登山口を目指して疾駆すること90分。

“到着” 静寂の中に安房川の轟音が耳につく標高600mの登山口には既に他の数組のパーティが到着しガイド共に登山の準備の最中だった。

われらのパーティ（6人）は初対面の挨拶を交わしガイドの指導で、今から目的地である標高約1,300mに鎮座する森の王様「縄文杉」に会うために標高差約700m・往復の距離約22kmさらに所要時間約10時間に及ぶ長丁場の為の準備体操を1、2、3と軽やかに。

〔いざ、出発〕

早春の早朝の肌寒さと安房川の冷たい風から身を守るため薄手の防寒着を羽織る。屋久島の山間部では年間降水量が10,000mmにも及ぶと言う。

今日は雨の心配はなさそうだ。しかし低気圧の通過で強風が吹いている。風の音と安房川の流れの音を不気味に感じながらキャップランプを灯しながら目的地へと向かう。

〔トロッコみち〕

日本で唯一、現役で活躍の森林軌道らしい。大正12年（1923年）に開通した森林軌道は、今でも活躍している。最盛期には26kmにも及んだトロッコ道。いまは発電所管理等のため約10kmのみが運営されていると言う。

このトロッコは時折登山者のケガ人等の運搬にも活躍している由。

このトロッコ道が荒川登山口から「縄文杉」までの全22kmの約半分を占めている。

〔縄文杉への道〕

荒川登山口→小杉谷学校と集落跡まで起点の荒川登山口から約40分で小杉谷橋がある。この橋を渡りきった所に小杉谷学校跡が在る。この学校を中心に集落が発展し林業が最盛期のころ約600人余りが暮らしていた跡地があり生活を感じることができる。

その学校跡入り口の案内板には詳細な歴史

が記されている。大正12年（1923年）から昭和45年（1970年）まで半世紀に及び林業が盛んであった事をうかがい知ることが出来た。

〔学校跡→翁杉〕

急流の安房川を樹林の合間に眺めながら淡々とトロッコ道を歩く。平坦で“散策”を楽しめたのはここ迄。本格的な登山道に入りメンバーに緊張感がみなぎる。

樹林の間、はるか彼方に九州地方で最高峰の宮之浦岳（1936m）を垣間見る事ができ一服の清涼剤となった。



・ 翁杉

登山道で最初に会おう巨木・無数の「こけ」類や着生木に覆われている。

推定樹齢2,000年・胸高周囲約13m

樹高 約24m

〔翁杉→ウイルソン株〕

湿気が多く滑りが気になる登山道には朽ち果てた倒木やむき出しの根っ子がある。苔むした木々は風雪に耐えた貫禄と風格が滲んでいる。

樹林の間に突然大きな口を開けた様な根っ子に出会う。写真等で見るウイルソン株だ。1596年に伐採さと言われていた巨人な切り株です。

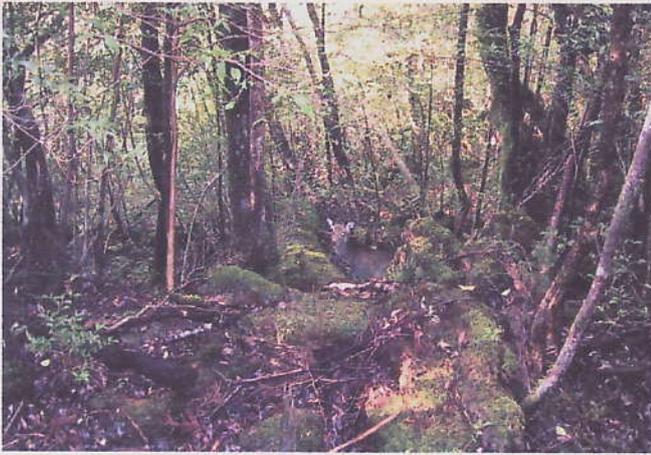
・ ウイルソン株

推定樹齢3,000年・胸高周囲約14m

根っ子の中は10畳ほどの空洞になっていて中には神が祀られていた。

〔ウイルソン株→大王杉〕

登山道には湿気の多い場所や木々の保護の為木道が敷設され、また急な登り道には木製の階段が設けてある。静寂で暗い樹林の中に突然、青く鋭く光っている物に出会う。“山の神”と言われていた“屋久シカ”が侵入者を威嚇している感がある。



・ 大王杉

推定樹齢3,000年・胸高周囲約12m
「縄文杉」が発見されるまでは最大の屋久杉と言われていた杉。周囲を圧倒する風格があった。

[大王杉→夫婦杉]

滑る足元を気にしながら黙々と登りつめた。荒川登山口を出てトロッコ道をのんびりと歩き色々な巨木と出会い感激し、さらに奥深く進んだ場所に奇妙な形の大木が見えた。地上から約10m位の所で結ばれているような2本の屋久杉。夫婦が仲良く手を取り合い、寄り添う様な形をしている夫婦杉だ。

(夫) 推定樹齢2,000年・胸高周囲11m

(妻) 推定樹齢1,500年・胸高周囲約6m

[夫婦杉→縄文杉]

屋久島のシンボル「屋久杉」には、こぶやねじれのせいで材木として価値を為さず伐採されずに残った古樹連は個性がたっぷりで表情が実に豊かなものです。そんな中で縄文杉は威厳に満ちた森の王様です。推定樹齢は7,200年とも言われ悠久の時を過ごして来た。屋久島の巨木の象徴が「縄文杉」です。

その姿は周囲を圧倒し睥睨し誰も寄せ付けない雰囲気さえ感じられた。

推定樹齢7,200年・樹高周囲16m

樹 高25m

[残 雪]

屋久島には九州地方で最高峰の宮之岳(1,936m)が鎮座している。その周りには永田岳(1,886m)・栗生岳(1,867m)等1,800mを超える山が8座も連なり深い森と険しい谷からなっている。これらの山間に残雪をみる事ができた。

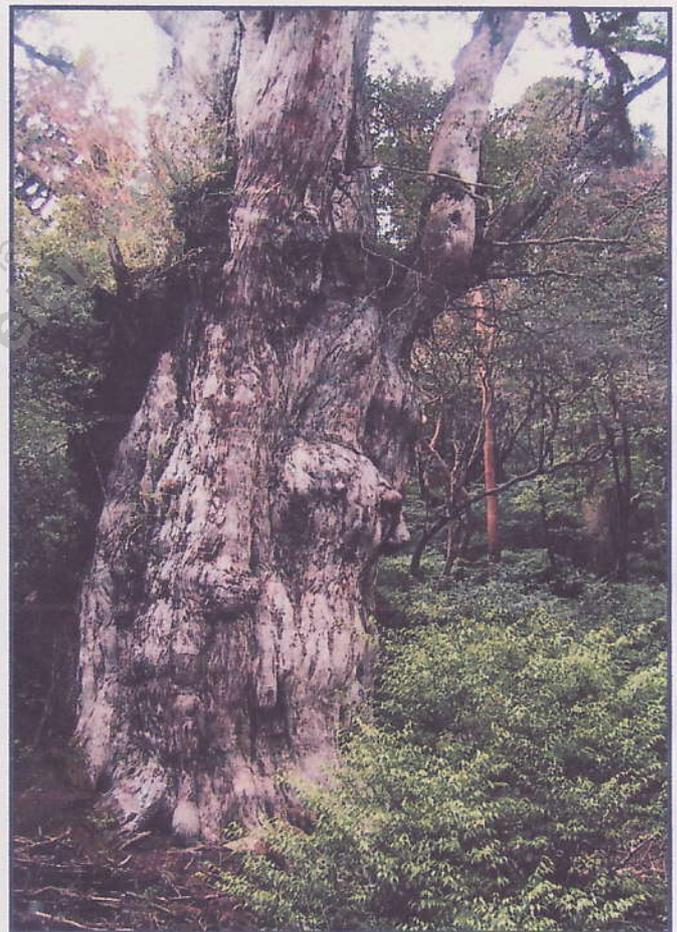
荒川登山口ではさくらのほころび見て、春を感じながらの山道で樹林のすき間からこの時期残雪は感激ものでした。

[屋久杉とは]

標高500m以上で生育し、樹齢が1,000年以上の天然杉の総称です。樹齢が1,000年以下は「小杉」と呼ぶらしい



大王杉をバックに



縄 文 杉

近況報告

橋本 滋 あいにく、東京の孫が来ますので残念ながら今回は欠席させていただきます。

駒走 隆道 兵庫県立姫路循環器病センターで上行大動脈瘤破裂の人工血管置換手術をしてから1年半が経過しましたが経過は順調です。2ヶ月に1回センターへ通院して薬をもらっています。隣に娘一家（娘夫婦と孫2人）が住んでおり、孫が遊びにきて賑やかです。娘婿は高砂の旧生物化学研究所工業化試験室に勤務しています。母の面倒は大分にいる妹がみています。諸般の事情で当分の間高砂住まいとなりそうですので、次年度から高砂支部へ転籍させていただきたくお願いいたします。九州支部の皆さん大変お世話になりました。支部例会の盛会と支部の今後ますますのご発展をお祈りいたします。

上野 賢二 この時期は来年2月11日開催の「城島酒蔵開き」の準備で多忙を極めており、不参加とさせていただきます。本業の運送業も課題山積で、会社の存続をかけ、悪戦苦闘の日々を送っています。早川会長を始め例会参加の諸先輩方へよろしくお伝えください。

西村 和夫 今回も不参加にてお願いします。

森田 範行 折角のご案内ですが20.21日は当社の主要ユーザーであるフランソワ様の秋のコンペが嬉野であり、20日ゴルフで、夜宴会で宿泊と全く重なってしまいました。誠に残念ですが、今回は欠席させていただきます。皆様によりしくお伝えください。会社は原材料の高騰で青息吐息の昨今です。

薬師寺 是文 建設業協会津久見支部に勤務して5年が経過。公共事業削減の影響で地方の建設業者は青息吐息です。政治が悪いと彼らの苦情に耳を傾けている毎日。

成相 定雄 お彼岸の墓参りに出雲に里帰りをしたついでに1,200kmのドライブをしてきました。中国山地の中で前が見えない程の大雨に会ってヒヤヒヤしましたが、1人での運転をやり遂げ、まだ若いと自負しています。

江崎 昭三 残念ですが、当日街づくり協議会の会合とかち合い、支部例会に出席できません。皆さんによりしく。

檜崎 賢治 年々体力の衰えを感じております。築後41年の家でひっそり生活しております。移植後約40年の槇の枝を落としたりしております。

山口 敏夫（電話） 脳梗塞で3ヶ月前から入院中とのこと。

永井 辰夫（電話） 農機具の販売の締め日が20日で、成績が芳しくないのでは休めないそうです。

古賀 照孝（電話） 元気にしています。

上野 與志隆 町づくりボランティアやお遊びの幹事、同窓会等で忙しく本業の貸ビル業はおろそかになり、経営は左まえになっています。

広政 誠 9月は5回もゴルフ。但しスコアは100を少し切る程度。向上目指し週1回は必ず練習し始めました。成果はいつか？

常森 喬紀・順子 鐘華会九州支部が震源になっていただいたKAISUI外断熱システムは、お陰様で、カネカの協力も得て、普及に向けて加速中です。先日は土木学会の「地球環境技術賞」もいただき、一層精進に努めたいと思います。現在は全国の代理店の獲得が最大の目標です。待ちに待った例会です。経営の修羅場からしばし離れて、心の洗濯をしたいと思います。早川会長も参加いただけることで、楽しみにしています。明るい新年に向けてGO!!

川上 義人 グループホーム（伊予西条）に預けている母の世話のため10月8日～20日まで今年8回目の帰西です。45年余も親不孝で過ごして来たので、最後の孝行と思って頑張っています。体重は変わらず49kgしかありませんが、非常に元気で、毎日1万歩から2万歩位を歩いています。涼しくなればジョギングを混えたいと思っています。

山中 俊一 相変わらず営業に走り回っております。再会を楽しみにしております。

後藤 祐吉 寄る年波と戦いながら過ごしています。ゴルフには出席としましたが体力。技術共に全然自信がありません。どうぞよろしく。

市木 丞 日々、元気に過ごしています。

石原 晋一郎 10月のカネカクラブ記念展には写真と陶芸の作品を出品する予定です。今回の九州訪問は18日～21日を予定しています。昨年は私の都合もあり九州の皆様への顔出しが不十分で大変叱られていますので時間をかけて廻る予定にしています。

小城 一洋 参加できる体調になりました。初めての例会参加ですがよろしく。秋深しもみじ踏み分けなく鹿の声——秋はかなしき——とほほ——。

青木 得志 9月初旬、父を失い、喪主のため年内は49日、100日の法要で忙しいことが多いと思います。私自身は元気に過ごしています。

武田 敏光 最近の重油暴騰により不況業種に指定され大苦戦をしております。ストレス解消にゴルフ練習に通っております。

中村 晃 ゴルフを休止して1年が過ぎました。再開は——？

（敬称略）

【平成20年度 支部活動報告】

◇既に実施した行事

年	月	日	活動内容
20	01	25	(鐘華会役員会・於芦屋荘)
	02	06	支部幹事会
	03	14	職場訪問(九州カネ食)懇親会(12/18)
	05	15	支部だより14号発行
	05	17	第18回GC(あひる会・チサン御船)(8/23)
	08	05	(鐘華会役員会・於芦屋荘)
	08	21	支部幹事会
	11	08	第19回GC(あひる会・小岱山C)

◇これからに予定

年	月	日	活動予定
20	11	20	支部例会
	11	20	支部だより15号発行
	11	21	第20回GC(熊本空港CC)
21	01		(鐘華会役員会・於芦屋荘)
	02		支部幹事会
	03		職場訪問・懇親会

(特記事項)

*九州カネ食の職場訪問は総勢18名(内鐘華会12名)と大いに盛り上がった。

*春のあひる会ゴルフコンペは8名が参加。

【平成20年度支部予算】

項目	19実績	20予算	20実績
支部だより通信費等	8,426	10,000	6,239
例会写真代等	0	5,600	
職場訪問通信費等	0	3,500	1,680
幹事会交通費補助	0	10,000	
例会案内	3,040	3,500	
合計	11,466	32,600	7,919

(特記事項)

*本年度より支部活動費が予算化された。

従来支部内部で処理していた例会写真代等を予算化した。また、支部幹事会の交通費(県外からの出席者)の一部補助(2,000円/回)を行う。

【定例役員会報告】

◇平成20年8月5日(火)15時半よりカネカ芦屋荘にて定例役員会が開催された。

◇主な内容は下記の通りです。

1. 会長挨拶
4年前より会費制を導入したが、現時点で鐘華会基金として約1年分の活動費を留保することができた。
2. 会計報告(中間)
支部活動費の消化状況は、実質スタートが4月だったことから本年度中の消化は難しいと思われる。
3. 各支部活動報告
(高砂)アンケートの結果、「カネカニュース」の要望や「カネカの現状を知りたい」と言った意見が複数あった。→「鐘華」で検討する。
また弔事連絡が充分ではないという不満が多いため、今後メーリングリストを活用して連絡することにした。
(大阪)事前登録した会員25~26名限定でブログを開始した。
4. 年会費について
振込手数料の負担が大きいこと、毎年の支払いが面倒との意見もあり、終身会費制の導入について議論した。結果、現在の年会費制(1,000円)に加え、終身会費制を併用することにした。
例えば
① 60歳から65歳までの方 20,000円
② 66歳から70歳までの方 15,000円
③ 71歳から75歳までの方 10,000円
④ 76歳以上の方 5,000円

あとがき

- ・「戦艦大和の生涯 ①②」で江崎さんが熱烈な海軍マニアなのに驚きました。海軍に入隊し、学生として終戦を迎えた経験が大きく影響していると思いました。
- ・市木さんは、今回は屋久島です。九州支部でも計画したことがありますが、「往復の距離が約22km、所要時間10時間、標高差700m」と聞くと中止して正解だったと痛感しました。
- ・「近況報告」では山口さんの入院にはビックリしました。お互いに健康には注意したいものです。
- ・コエンザイム関連の社内販売で新製品が発売されました。(別添資料参照)体内に吸収しやすい還元型の「ネオチューン」やカネカのグラボノイドを使用し、内臓脂肪を燃やす「リコライト」などです。ご用命は従来通り「九州カネライト」の成相さんまでお願いします。

成相 定雄 電話: 0942-54-1992 FAX: 0942-54-1005 (会社)

E-mail: Sadao_Nariai@ken.grp.kaneka.co.jp